

検討主体が行う霞ヶ浦導水事業利水参画者の開発量の確認方法について（案）

1. 目的

ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目「第4 再評価の視点」(2)④で指摘されている「必要量の算出が妥当に行われているかを確認する」に基づき、必要量の算出方法の確認を行う。

2. 基本的な考え方

○必要とする開発量の根拠に関連する計画の確認

人口、給水区域、基本的な考え方について、下記の上位計画なども含めて確認する。

- ①都県の長期計画
- ②水道事業計画認可
- ③第5次水資源開発基本計画における資料
- ④その他、関連資料

○開発量の算出方法の確認

1) 水道用水

水道施設設計指針・水道統計を参考とし、以下の基本的事項について確認する。

① 計画給水人口

計画給水人口は、給水区域内人口×普及率により算出され、必要水量算出のための基礎となる部分であるため、給水区域内人口及び普及率の推計方法と推計理由について確認する。

② 原単位

原単位は、生活用水、業務・営業用水、工場用水、その他用水に分類されるが、生活水準の変化や都市の発展状況、経済状況などに影響されるものであるため、推計方法と推計理由、社会的要因など考慮した内容と理由について確認する。

③ 有効率

有効率は、水道施設および給水装置を通して給水される水量が有効に使用されているかの指標であることから、漏水防止対策等の内容、目標値の設定方法と採用理由について確認する。

④ 負荷率

負荷率は、事業規模や都市の性格、気象条件によっても変化するため、採用した負荷率の算出方法と採用理由について確認する。

⑤ 利用量率

利用量率は、取水口から浄水場までの間における漏水等の損失水量の一日最大給水量に対する割合であるが、採用した利用量率の算出方法と採用理由について確認する。

⑥ 確保水源の状況

ダムに参画する必要性を把握するため、現時点で確保されている水源の状況について確認する。

2) 工業用水道

工業統計を参考とし、以下の基本的事項について確認する。

① 用途別の使用水量の原単位

必要水量の算出にあたり、想定している用途別の原単位の設定方法及び算出根拠について確認する。

② 回収率

回収率は、工業用水の使用水量の中に占める回収水量（循環利用水量）の割合をいい、値の変動によって必要水量の算定に影響するため、算出方法と採用理由について確認する。

③ 損失率

損失率は、循環利用を行う際に損失される水の率（蒸発・飛散など）をいい、値の変動によって必要水量の算定に影響するため、算出方法と採用理由について確認する。

④ 確保水源の状況

ダムに参画する必要性を把握するため、現時点で確保されている水源の状況について確認する。